

研修主題

『自分の考えをもち、表現できる児童の育成』—主体的な交流活動を取り入れた国語科指導を通して—

内容：特支・人権 校内研修

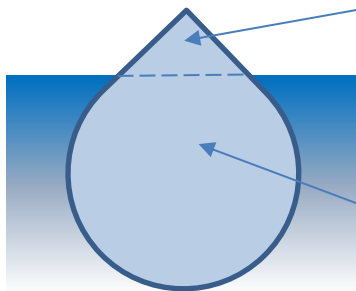
『赤堀小学校こども発達相談室の実態と気になる子どもへの支援について』
～人権教育的な視点を交えて～ 講師：関口 幾久夫

特支・人権にかかわる校内研修において、本校職員でもある赤堀小学校こども発達相談室の関口幾久夫先生に、こども発達相談室の実態と気になる子どもへの支援について、職員に向けて講話をしていただきました。

通級指導の実態

- 本校の通級指導を受けている児童は30人程度。高学年になると指導が終了したり減少する傾向にある。
低学年から通う児童には、保護者は塾に通わせる感覚で、子どもは遊べる場所にいく感覚というような「通級での指導が楽しい。」と感じる児童もいるが、中学年以降に通級指導を受ける児童には、「通級に通うことが恥ずかしい。」「周りの目を気にしながら通う」児童もいる。

子ども達の気持ち（冰山モデル）



目に見える様子

- 学習が苦手
発音が難しいや吃音が見られる
ルールが守れない。集団行動が苦手

子どもの心理

- 不安
いらだち
緊張、恐怖など

子どもの特性

- 感覚が鈍い、過敏。
衝動性、不器用
認知の偏り

困った子ではなく、困っている子

二次障害を起こさせないために

言語（発音）が苦手な子

- みんなで応援してあげる雰囲気を作る。

吃音障害がある子

- 吃音を受け入れられるように、本人と確認しながら支援をする。

感想

- 詳しいお話を聞くことができ、貴重な機会でした。特別な支援を必要とする児童の関わりについて、改めて考える機会になりました。
具体的な例の話から、配慮の仕方、支援の仕方がわかり良かったです。通級児童の様子や支援の仕方を具体的に知りたかったです。

関口先生お忙しい中ありがとうございました！！

